

## マーケットの動き（2022年6月27日～7月1日）

先週の国内債券市場は、前週末比で金利はほぼ横ばいとなりました。

週初は、前週の世界的な株高・債券安の流れを受け、国内金利にも上昇圧力が高まりました。その後は、ドイツCPI（消費者物価指数）の伸び鈍化や、日銀による国債買い入れの増額期待を背景に金利低下に転じました。米国金利の上昇が一服したことも支援材料となり、前週末と同水準で週を終えました。

クレジット市場は、国内債券市場の不安定さから投資家のリスク回避的姿勢が継続しました。

## 投資環境見通し（2022年6月）

## 国内長期金利はレンジ内での動き

国内長期金利は、海外の長期金利や金融政策の動向に加えて、将来の日銀の金融政策変更に対する思惑などから、変動率が高まる可能性があります。しかし、日銀は「指値オペ」を連日実施するなど金融緩和政策を継続する姿勢を強く示しており、長期金利は当面はレンジ内での動きになるとみています。

	7月1日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（日本、%） （変動幅）	0.23	0.00	▲0.00	0.16	0.19
NOMURA-BPI総合 （騰落率）	376.66	0.16%	▲0.74%	▲2.63%	▲2.76%

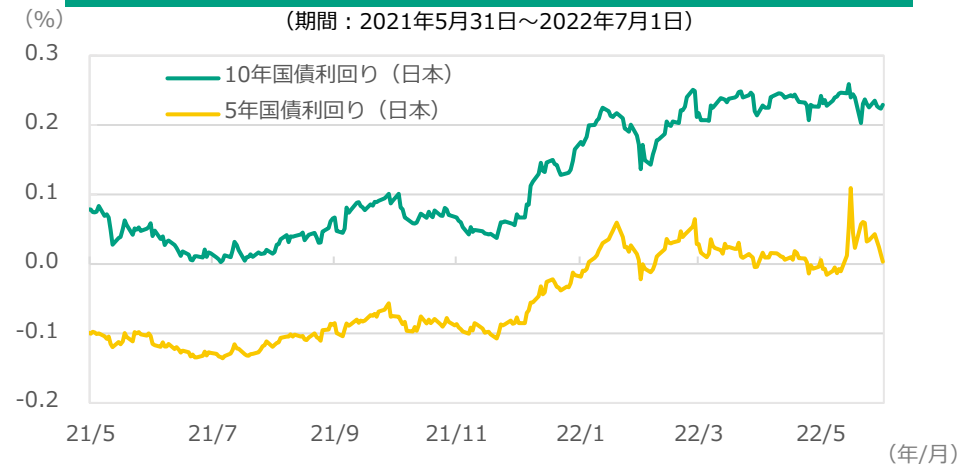
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

[https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload\\_pdf/202206\\_outlook.pdf](https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202206_outlook.pdf)

## 日本国債利回りの推移

（期間：2021年5月31日～2022年7月1日）



## NOMURA-BPI総合指数の推移

（期間：2021年5月31日～2022年7月1日）



※2021年5月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客様の投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客様自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>